

氏名	栗飯原 文子 教授
こんな研究をしています	英語・仏語で書かれたアフリカ文学、特に小説を中心に研究しています。
こんな成果を挙げています	<p>【論文】</p> <p>「ヒューマニティの再構築に向けて——アフリカ文学と多元的共生の想像力」『思想』岩波書店, 2026年2月号.</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」第3回 アフリカをクィア化する／クィア化するアフリカ——クィアアフリカ文学の波」『思想』岩波書店, 2019年12月号.</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」第2回 メイド・イン・アフリカの可能性——アフリカの出版の未来」『思想』岩波書店, 2019年6月号.</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」第1回 アフリカ文学とはなにか——五〇年後の始まり」『思想』岩波書店, 2018年10月号.</p> <p>【翻訳】</p> <p>ナディーファ・モハメッド『運命の男たち』早川書房, 2025年.</p> <p>アブドゥルラザク・グルナ『楽園』白水社, 2023年.</p> <p>マアザ・メンギステ『影の王』早川書房, 2023年.</p> <p>チヌア・アチェベ『崩れゆく絆』光文社古典新訳文庫, 2013年.</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカのポピュラー・カルチャー ・アフリカ映画・音楽 ・アフリカ哲学 ・パンアフリカニズムの歴史・思想 ・旧植民地世界の文学 ・ジェンダー・クィア理論
こんな授業を行なっています	<p>多言語相関論 IA(春)/IB(秋)：アフリカ文学概論 I/II</p> <p>現代アフリカ文学のさまざまな作品に触れ、歴史的・社会的文脈をふまえつつ、主題、手法、表現を学びます。いくつかのトピックに分けて作家と作品へのアプローチをおこない、アフリカ文学の主要なテーマを学び、その全体像と魅力をとらえることを目的としています。なお、アフリカやアフリカ文学に関する知識はまったく必要ありません。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ（系）の作家による、古典から最新の作品まで、重要なもの、おもしろいものを日本語で紹介できるように頑張りたいと思っています。 ・芸術選奨文学部門の推薦委員（2024年度）、選考審査委員（2025年度）を務めました。
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	アフリカ大陸（出身）の作家のほとんど全員が“インターカルチュラル”だと思います。彼ら彼女らは、二つ以上の言語と文化をまたぎ、大陸内を移動、内外を往来して活躍しているからです。作品にもそれが色濃く反映されています。